

カルカソンヌ世界選手権報告2012

村田 大輔

みなさま初めまして。村田大輔と申します。この度は僭越ながらカルカソンヌ世界選手権についてレポートさせていただきます。

まず、妻のことをお話させてください。

今年の日本選手権開催の発表があった3月から、ドイツ行きを目指して、妻と2人で練習してきました。どんなに体調が悪いときも、どんなに遅く帰宅しても、毎日必ず1回対戦しました。世界選手権が決まった後も、今度は私のためだけに練習に毎日つき合ってくれました。対戦した回数は250回を超えたいと思います。

また、旅行にかかわる全ての手配、調べ物等も妻が行ってくれました。私1人であつたら、おそらく海外旅行することすら怖くて、出場を辞退していたと思います。

本当にありがとう。感謝です。



1 回戦

VS. 超イケメンナイスガイのベルギー代表

大会主催者から、ゲーム前に参加者を集めてルールの確認がありました。彼は「先ほどの説明わかった?」と聞いてくれ、「まあ大丈夫だよ」と答えましたが、「いちおうおさらいしようか」といった感じで、タイルをめくり、駒を置いて、得点を入れてからチェスクロックを押すんだよとか、タイル2枚の都市は2点ではなく4点だよなどと懇切丁寧に教えてくれました。

ゲーム展開は、相手の大都市を完成寸前で3つとも防ぐことができ、終始リードを保つ内容で完勝。

2 回戦

VS. 超神経質なドイツ代表

「得点ボードは机から落ちてしまうとわからなくなる。オレがノートにつけておくから必要ない」と言われましたが、途中の点差がわからないと戦略に響くし、なにより正しく点をつけてくれるか不安だったので、言っていることが理解できないふりをして、強引にボードを用いて得点をつけました。当初相手は、得点ボードをつける気がなかったので、私が相手の得点も入れてあげましたが、その後はちゃんと相手も自分で入れてくれました。



最終的に勝利しましたが、合計点数がノートと合いませんでした。当然です。彼が終盤、私のポイントを記入していなかったからです。私のポイントを記入していないことは、はっきりわかっていましたが、もう勝負をあきらめて書かないのかな? と思い特に指摘はしませんでした。彼はただ単に忘れただけのようなので、これが僅差の争いであつたらめめる原因となつたなあと思いました。

3 回戦

VS. こちらもファミリーで参加のルーマニア代表

この方は、おそらく先めぐりなしのルールで遊んでいたと思われ、不慣れなせいか、何度も私の手番が終わってか

らタイルをめくっていました。少し不利だったと思います。なので、私も相手が引かなかつたときは付き合っ、引くのをおぼたふりをしました。

またもや終盤に大都市を完成させられそうになり、ひやひやしましたが、閉まらないようにブロックすることができ勝利。

4 回戦

VS. 恰幅のよい陽気なオランダ代表

相手が序盤から大都市をめざし、完成させられそうになったので相乗りするものの、すぐに駒を置かれて、再び相乗りするも、またまたすぐに駒を置かれて、私はとにかく拡大&閉まらないように配置しました。しかし、相手は全く



ムダのない引きで、開始5分程度で30点弱の超巨大都市をいとも簡単に完成させられ、勝負があつたかんじでした。

ただ、何が起こるかかわからないのがカルカソンヌ。奇跡の引きを期待してあきらめずにがんばりましたが、その後は、完全に「負けなし指しかた」をされ、結果は完敗。

5 回戦

VS. 昨年度チャンピオンのブルテン女史

道付き教会を2回とも3点即確定の道の得点として使用していました。おそらく21点分の平原争いのために駒を戻しておきたかつたのだと思いましたが、既に駒2つ分差が離れており、追いつくのは難しいと考えていたので、少し助かりました。私の中都市に対して相乗りやプレッシャーがなかつたのでなんなく完成することができ勝利。



6 回戦

VS.とても23歳には見えなかったチェコ代表

後手な上に、小さな都市を2つ決められ、0対8からの厳しいスタート。さらに、自分の得点よりも駒を戻させないことを主眼とした戦略で苦戦を強いられました。

こちら最終的には平原得点をMAX9点に抑えることができ、駒の数の不利が出ないようにコントロールできましたが、どうしてもタイルの引きのタイミングが悪く、思うようにゲームを運べませんでした。ただ、タイルの引きが悪いときにこそ真価が問われるわけであり、言い訳にはできません。結局、1点差で負けました。

最終的に4勝2敗で予選が終了しました。今回は、全勝が1人もおらず、5勝1敗が3人。4勝グループからは1人準決勝進出することができましたが、対戦相手の勝利数の差で準決勝進出を逃し、結果、5位となりました。

6回戦目に負けた瞬間、妻は泣いていて、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

私は「ああ負けた」ぐらいの気持ちしかありませんでしたが、その晩は悔しさがこみ上げてきて、一睡もできませんでした。

6.Runde CCS WM 2012:		
1: Leopoldseeder, Stefan	- Tabak, Matej	88:94
2: Mojzis, Martin	- Murata, Daisuke	92:91
3: Leinonen, Jussi	- Bulten, Els	77:123
		101:105

タイルの先めぐり

大会責任者に文書で確認したところ、次のとおり返事が返ってきました。

「公式ルールとしては、相手の手番が終わった後にタイルをめくります。ただ、大会においては、ほとんどの参加者が自分の手番が終わった後、すぐにめくっています。このことは大会責任者として、特に重要視していません。もし、公式ルールどおりに相手の手番が終わった後に、タイルをめくるようにしたいならば、ゲームを始める前に相手に確認をとったほうが良いでしょう。」とのことでした。

個人的には、「自分の番が来てから、気合を入れてタイルをめくりたい」程度の気持ちなので、どちらでも良いのですが。

得点カウント

タイルを配置して即ポイントが入る場合でも、しっかり駒を置いて、この場所で得点を入れます、という意味表示をします。日本選手権時に、私はこれをしていなかったため、後で指摘されました。私も省略せずに駒を置いた方が良いと思うので、それ以降は駒を置いていますが、今大会の対戦相手6人中3人は、即ポイントが入るところで駒を置かなかったことがありました。

決して、以前の自分自身の行為を正当化するわけではありませんが、置かない人もいるということは認識しておいた方が良くと思います。タイル先めぐりのように公式化してしまうかもしれません。

コマのカラーの選択

私が後手番のときは、相手がどうぞと譲ってくれたので、自分の好きな色を選択できました。また、先手のときは譲ってあげました。

ただ、6回戦目は、相手が先手なのに先に私の好きな色を選ばれてしまいました。交渉の結果、私も譲らなかったので、私が選択権を得ましたが、余計なところで神経を使ってしまったかもしれません。正式なルールは確認していません。

先手と後手

基本的には、先手回数が少ない方が先手になるのですが、同じ場合は機械がランダムで決めるようです。私は5回戦終えて、先手が2回だったので、6回戦目は先手を取れる

ことを期待したのですが、相手も2回だったようで、機械が決めた結果、後手になってしまいました。このあたりもついていませんでした。

チェスクロックと持ち時間

アナログ式のチェスクロックも何度も使用したことがあるので、問題はありませんでした。

また、今回先めぐりルールで、自分の持ち時間が5分を切ったのは1度だけだったので、とくに自分が時間に困ることはなかったのですが、かなり小さいので正面から覗き込まないと残り時間を確認できないのは要注意です。

6回戦目は、相手が相当長考しており、最終的に相手の残り時間は1分程度だったのですが、中終盤は正確な相手の残り時間がわからず、時間でも攻めた方が良いのか、じっくり考えるか悩んだ局面がありました。

コミュニケーション能力

本大会に参加させていただいて、負けたのは非常に残念ですが、もう1つ心残りがあります。それは自分の語学力のなさのせいでコミュニケーションが十分に取れなかったことです。

参加者の大半は本当にフレンドリーで、ゲーム以外のことに関しても積極的に話しかけてくれました。こちらも相手が話している内容は理解できるのですが、自分の思いを伝えることや新しく話題を提供することが全くできなくて、歯がゆい思いをしました。

もし、またこのようなチャンスをいただける機会がありましたら、語学力も鍛えて、もっともっと楽しみたいと感じました。

最後になりますが、このたびはメビウスゲームズ様及びJAGAの皆様のおかげで日本選手権、世界選手権に参加させていただき、家族ともども良い思い出、貴重な体験となりました。本当にどうもありがとうございました。

